

飛鳥資料館のみどころ（1）

飛鳥資料館は、1970年12月の「飛鳥地方における歴史的風土および文化財の保存等に関する方策について」の閣議決定に基づき、1975年、明日香村に設置されました。

資料館は、1階に第1展示室、第2展示室が、地階には特別展示室があります。第1展示室には、宮殿、寺院、古墳、石造物、万葉集のコーナー、高松塚古墳から出土した海獣葡萄鏡などを展示した特別コーナーのほか近年、話題になったキトラ古墳の壁画の写真パネルなども展示しています。第2展示室には、山田寺東回廊の出土木材を組み立てて、在りし日の東回廊を再現しています。山田寺東回廊の建築年代は7世紀の中頃。法隆寺金堂よりも若干古いと考えられており、世界最古の木造建築といえる大変貴重なものです。

前庭には、明治時代に石神遺跡から出土した飛鳥時代の噴水である須弥山石や石人像、ユーモラスな表情で知られる亀石や奇怪な姿の猿石などのレプリカを展

示しており、さながら飛鳥の石彫美術館です。さらに、昨年には、八釣マキト5号墳の石室も移設復元しました。なお、須弥山石と石人像は館内で本物が見られます。

飛鳥探訪の折りには、ぜひお立ち寄りいただき、飛鳥の歴史や残された文化財について理解を深めていただきたいと思います。お問い合わせは飛鳥資料館（電話0744-59-3561）まで。インターネットのホームページアドレスは <http://www.asukanet.gr.jp> です。

（飛鳥資料館 西山和宏）



飛鳥資料館

お知らせ

平城宮大極殿復原工事一般公開施設

この施設は、朱雀門・東院庭園に続き、2010年の完成を目指す大極殿の復原工事過程を広く公開し、あわせて関連資料を展示する施設です。今年4月にオープン、すでに1万人をこえる方々に見学して頂いております。ここでは、大極殿復原建築現場を覆う素屋根の大きさを体感し、工事にじっさい使う木材の加工を（窓越しではありますが）見学することで、遺跡や建物復原への理解を深めて頂きたいと考えています。各種資料展示や大画面シアター、テラスからの朱雀門展望もあわせてお楽しみください。

（文化財情報課 大山達夫）



大極殿復原工事現場の一般公開施設

訃報

松本修自さん（埋蔵文化財センター保存修復工学研究室長）

軽妙洒脱な語り口で親しまれた松本さんが7月2日夜逝去された。昭和50年入所以来、特に7世紀建築遺構の復原的研究に尽力されるとともに、各地の町並みや近世社寺建築の調査研究にと幅広く活躍された。平成5年に東文研に移られてからはそうした経験を基に遺跡・建造物の保存修復の理念と実践をテーマとされ、欧州との文化遺産保護協力を推進された。奈文研に戻られてわずか1年余。古巣に新しい風を吹き込むことを期待されていた矢先のことであった。心より御冥福をお祈りいたします。

（文化遺産研究部 清水真一）

編集後記：奈文研ニュースNo.9いかがでしたでしょうか。このNo.9では、見開きの「奈文研ギャラリー」をはじめ、飛鳥資料館の魅力を発信するコーナーを設けるなど、「読者本位」をキーワードに装いをあらたにしました。これからも、魅力ある誌面作りを心がけていくつもりです。ご意見をお寄せください。 （編集委員長 千田剛道）

編集 「奈文研ニュース」編集委員会

発行 奈良文化財研究所 <http://www.nabunken.jp>

Eメール jimu@nabunken.go.jp

発行年月 2003年7月